

情緒学級の45分授業チェックリスト・テンプレート

大人が関わる時間と、子どもが自力で取り組む時間を組み合わせて授業を安定させるための確認用資料

使い方：すべてにチェックを入れることが目的ではありません。授業が回りにくいときに、「大人が関わる時間」「自力課題」「待ち時間」「授業の閉じ方」を見直すために使ってください。

1. 情緒学級の45分授業チェックリスト

授業全体の見直し

☐ その授業の中心課題を決めている	☐ 45分を詰め込みすぎしていない
☐ 子どもが「できた」「終わった」と感じられる流れになっている	☐ 授業の最初から難しすぎる課題を入れていない
☐ 授業の終わり方を決めている	☐ 片付けや次の活動への切り替えまで考えている

導入・弾みをつける活動

☐ 2～3分程度で終わる活動を用意している	☐ 取り組みば達成しやすい活動になっている
☐ 音読、計算カード、漢字、九九、短い復習などを使えるようにしている	☐ 声を出す活動が苦手な子への配慮をしている
☐ 「今日もできそう」と思える導入になっている	

大人が関わる時間

☐ 教科書など、新しい内容を扱う時間を確保している	☐ どの学年に何分関わるか、おおまかに決めている
☐ 大人の支援が必要な活動を授業後半に残しすぎしていない	☐ 教科書を中盤までに扱える流れにしている
☐ 同じ学年の子どもをまとめて見る時間を作っている	☐ 子どもの実態に応じて、低学年・高学年の関わり方を調整している

子どもが自力で取り組む時間

☐ 子どもが一人で取り組める課題を用意している	☐ 既習内容のプリントやドリルを準備している
☐ 課題の量が多すぎない	☐ 課題の終わりが分かりやすい
☐ 「プリント3枚」「ドリル見開き1ページ」など、量が明確になっている	☐ 難しすぎて結局大人の支援が必要になる課題になっていない

待ち時間への対応

☐ 分からないときにどうするか決めている	☐ 終わったときに何をするか決めている
☐ 先生を待つときの過ごし方を決めている	☐ 待ち時間用の課題を用意している
☐ 手持ち無沙汰な時間が長くならないようにしている	☐ 「何をしたらよいか分からない時間」を減らす工夫をしている

チェック・フィードバック

☐ 自力課題をやらせっぱなしにしていない	☐ 丸つけや確認の時間を入れている
☐ できたことを短く伝えている	☐ 間違いを直す時間を確保している
☐ 音読や書いたものを確認する時間を作っている	☐ 子どもが「見てもらえた」と感じられる関わりを入れている

授業の終わり方

☐ 授業の最後にできたことを確認している	☐ 「ここまでできたね」と伝える場面を作っている
☐ 完璧にできたかだけでなく、取り組めたことも評価している	☐ 片付けまで含めて授業の流れに入れている
☐ 次にやることを簡単に予告している	☐ 成功体験で授業を閉じる意識を持っている

見直しの観点

☐ 大人が関わる時間と自力時間のバランスが取れている	☐ 子どもの待ち時間が長くなりすぎしていない
☐ 教師が一人の子にかかりきりになりすぎしていない	☐ 後半に難しい課題を残しすぎしていない
☐ 子どもが自分で動ける場面がある	☐ 授業後に「次はここを調整しよう」と振り返れる
☐ 先生も子どもも無理なく続けられる流れになっている	

2. 情緒学級の 45 分授業テンプレート

子どもの人数、学年、実態、交流学級への参加状況によって調整してください。基本は「教科書など大人の支援が必要な活動の中盤までに扱い、後半は自力課題・丸つけ・個別確認に寄せる」ことです。

基本の 45 分テンプレート

時間	子どもの活動	教師の動き
0～3 分	導入、音読、計算カード、短い復習	全体を見る。授業の流れに乗せる
3～10 分	低学年は教科書。他児は自力課題	低学年に関わる
10～20 分	中学年は教科書。他児は自力課題	中学年に関わる
20～30 分	高学年は教科書。他児はプリントやドリル	高学年に関わる
30～40 分	プリント、ドリル、タブレット学習	丸つけ、個別確認、短い支援
40～45 分	片付け、できたことの確認、次時の予告	成功体験で授業を閉じる

国語の授業テンプレート

流れ	内容	ポイント
導入	音読、漢字の読み、短い復習	短時間で達成しやすい活動にする
書き取り	漢字練習、視写、短文づくり	自力で取り組める量にする
教科書	新しい文章、読み取り、発問への応答	大人が関わる時間として確保する
プリント	既習内容、読み取り、漢字練習	終わりが分かる課題にする
タブレット学習	漢字アプリ、読解練習、補充課題	終わった後の課題としても使える

算数の授業テンプレート

流れ	内容	ポイント
導入	計算カード、九九、前時の復習	短く、達成しやすくする
計算	既習の計算練習、暗算、ドリル	自力課題にしやすい
教科書	新しい考え方、解き方、具体物操作	大人が関わる時間として確保する
プリント	既習内容の反復、文章問題、補充課題	丸つけや確認の時間を入れる
タブレット学習	計算アプリ、図形アプリ、復習課題	終わった後の課題として使いやすい

待ち時間のテンプレート

場面	子どもの動き
分からないとき	分からない問題に印をつける。手を挙げる。先生に聞くカードを置く
終わったとき	先生に見せる。次のプリントに進む。読書やタブレット学習をする
先生を待つとき	できる問題だけ進める。読書をする。待つカードを置く
丸つけを待つとき	静かに次の課題をする。直しの準備をする
早く終わったとき	知育パズル、読書、復習アプリなど、決められた活動に取り組む

授業を組み立てるときの考え方

見るポイント	考えること
大人が必要な活動	教科書、新しい内容、具体物操作、読み取り、考えを書く活動
自力のできる活動	既習プリント、計算練習、漢字練習、ドリル、読書
チェックが必要な活動	丸つけ、音読確認、書いた内容の確認、直し
終わった後の活動	読書、タブレット学習、知育パズル、補充プリント
授業の閉じ方	できたことの確認、片付け、次時の予告